

## 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 ( 連携大学 名 )	金沢大学 (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、長野県看護大学) 計6大学
事 業 名	北信のシームレスながん医療を担う人材養成
事 業 責 任 者	金沢大学医薬保健研究域医学系、がん進展制御研究所教授 矢野聖二
事 業 の 概 要	<p>長野、富山、石川、福井の4県は、超少子高齢化に加え診断から治療・終末期医療まで全医療を居住地域で受けるがん患者が多い特徴がある。本事業（次世代北信がんプロ）は、診断から治療・終末期医療まで質の高い医療を地域でシームレスに行う多施設・多職種連携医療人材を養成する。連携6大学が強みを合わせた相互補完的教育コース（正規課程14、インテンシブコース10）を新設し、切れ目ないがん医療提供に必要な専門分野以外のがん医療分野の最新情報も学修したがん予防、病理診断、放射線・核医学治療、在宅緩和ケア等を担う人材、3期事業で必要性が示された小児・AYA世代がん経験者を支援する遺伝カウンセラーや腫瘍臨床心理士、新規免疫療法開発や個別化医療に必要なゲノム創薬・副作用対策を担う人材を養成する。オンライン教育や演習・講演会で多職種地域内連携を推進し、将来さらに少子高齢化が進む日本の地域がん医療の人材養成モデルを確立する。</p>
推進委員会からの主なコメント	○：優れた点等、●：改善を要する点等
	<p>○第3期事業の成果に基づいて新たな人材育成目標を掲げており、少子高齢化が進む日本の地域がん医療の人材養成モデルの確立、「その他の医療職」養成を目標とした細かいプログラム設定が見られ、これらの点は日本社会の医療ニーズに応えるものであり、その成果が期待される。</p> <p>○在宅終末期医療を推進する人材育成の教育体制の強化が期待できる。</p> <p>○コースごとに履修・修了者の達成目標が具体的に示され、設定したアウトカムの達成により、がん関連資格取得者数、地域におけるがん診療上の課題の解決・改善が見込まれる点が評価できる。</p> <p>○参加する各大学が、事業の目的に沿った多くの専門的なプログラム・コースや横断的プログラム・コースの提供に適切に参加し、参加大学の強みを活かして、各地域ニーズにあった人材育成を補填し合う連携（県を超えた教育連携や、がんデータベースの共有など）体制の構築を計画している点は評価できる。</p> <p>●代表校である金沢大学では複数の正規課程コースを立ち上げているが、他の連携大学は1～2コースにとどまっている。事業活動規模が比較的小さいこともあり、他の事業実施大学等との連携による教育機能強化（合同シンポジウム以外の単位互換などの教育連携など）を検討し、グループ全体として連携・協働をすすめることで、ダイナミックな教育を進めていくことが望まれる。</p> <p>●病理、放射線治療医育成（腫瘍循環器学や老年腫瘍学などがん関連領域）のための具体的なコース設定も検討し、もともと不足する専門医を育成するコースも準備されることが望ましい。</p> <p>●学長のガバナンスや各大学の運営委員会を統括した協議会、そのガバナンスや各種委員会設置による事業運営体制が記載されているが、これらが十分に機能するようより具体的な手段が不明であり、実効性に疑問がある。しっかりとした外部評価体制の構築が望まれる。進捗状況を評価した後、評価結果を次に活かす計画を盛り込むことが望まれる。</p> <p>●超少子高齢化地域であるがゆえ、目標達成とは別に履修者の地域への定着に課題がある。</p> <p>●大学と地域における医療の連携・協働を活かした教育システムやプログラムの新たな取組については明確に記されていない。また、プログラムの成果が少子高齢化の進む他地域の参考になるような具体的な発信方法を期待したい。</p>